Vol.168　気になるミタル　再浮上
再びアジアに買収意欲を！　（平成21年9月25日）

私達の君津市は新日鐵の「城下町」であります。
その城下町の市民として、鉄鋼業界の景気、動向は君津市民の生活と密接な関係があります。また、極めて気になることであります。

ＦＡＸ通信６月２５号では「昨年秋から始まった金融危機でミタルは大きくつまずいて、銀行団から１兆円を超える負債の返済を求められ、株価を大きく下落させ、６兆円と言われた時価総額は半減して、新日鐵が逆買収できる可能性が生まれた」と書きました。

しかし、その直後７月末に創業者一族の若きプリンスと言われる３３歳のＣＦＯアディテヤ・ミタルは記者団を集めて「３月以来３回にわたって社債を発行し、総額およそ１兆８００億円をわずか数カ月で調達できたので、当初難色を示していた銀行団からも大幅な譲歩を引き出せたので、資金は十分調達できた。６月末まで預金残高は６千億円となり、財務は万全となった」と発表しました。同席したミタル会長も不況突入以来一貫して成長戦略を維持し、４半期連続赤字（一説にはおよそ３千億円）を出してきたが、鉄鋼市場はすでに生産と価格調整も底入れが終わったと判断して休止している高炉を近く再稼働して、景気回復の恩恵を先取りしたいと表明したので、一時１５ドルまで下落したミタル株は、３０ドル後半まで大幅に上がり、３か月前には時価総額３兆円まで減らして、新日鐵の時価総額２．６兆円と接近したが、再び大きく差を広げて５．５兆円となりました。

資金調達成功と株価を上げた大きな理由（魅力）は、先述の様にミタル会長の鉄鋼需要の先見性と豊富な資金で、アジアの鉄鋼会社の買収を目指す意欲と、世界各地の鉄鋼原料資源の獲得を力説したことが投資家達に期待感を多く持たせたと思われます。
新日鐵等が持つ鉄鋼生産技術はまさに日本国家の貴重な財産でありますので、ミタルの今後の動向は懸念される所であります。

新日鐵も防御策として安定株主を固め、自社株買いも多くされている様でありますが、一時は９００円台の新日鐵株価は今では３８０円台？を安定しております。

しかし、株価が下がりすぎますと自己資本を減らす要因となります。この事は鉄鋼関係者にとって頭を痛めておられることと思います。ミタル会長のアジアへの食指を示したことが刺激となって、（私の全く素人考えですが・・・）新日鐵の株価がＣＢ証券転換価格７４０円まで上昇することが時価総額を上げ、防御策へ注ぎ込まれた投資の回収に繋がるのではと考えるのは・・・新たな鉄鋼再編の戦いには日本の鉄鋼メーカーも守りだけでなく、新日鐵を先頭に、攻める日本鉄鋼集団であってもらいたいと願ってやまない。

（８月１５日稿　日経ＢＮ８月号参照）